

地域への愛着をもち、よりよい地域・社会・未来を創造する子
～地域連携による「おおたの未来づくり」を目指して～（二年度）

第2学年 生活科学学習指導案

令和6年5月22日 5校時

大田区立久原小学校2年3組

1 単元名

大きくそだて わたしのやさい ～春から夏のやさい～

2 単元の目標

自分で選んだ野菜を育てる活動を通して、野菜の変化や成長の様子に関心をもって働きかけることができ、それらは生命をもっていることや成長していることに気付くとともに、栽培活動の楽しさや収穫の喜びを味わい、植物への親しみを深め、大切にしようとすることができるようにする。

3 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元 の 評 価 規 準	栽培を行う中で、植物が変化し、成長していることに気付き、生命をもっていることやその大切さに気付いている。 植物に合った関わり方があることが分かり、適切に関わっている。	植物が育つ中で、どのように変化し成長していくのかについて興味や関心をもって、植物に自分なりの方法で働きかけている。	植物などの生き物に心を寄せ、接するとともに、生命をもっているものに親しみをもち、大切にしようとしている。
学 習 活 動 に お け る 評 価 規 準	①自分が育てている野菜の特徴、育つ場所、変化や成長の様子に気付いている。 ②育てている植物に合った世話の仕方や食べ方があることが分かり、適切に関わっている。 ③植物は生命をもっていることや成長していることに気付いている。	①育ててみたい植物を選んだり、決めたりしている。 ②植物の変化や成長について考え、工夫して働きかけている。 ③育てている植物との関わりで見付けたことを自分なりの方法で表している。 ④栽培活動全体を自分との関わりで振り返り、自分が選んだ方法で表現している。	①自分の野菜に関心・関心をもって関わろうとしている。 ②植物の育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって、働きかけようとしている。 ③植物に親しみをもち、これからも大切にしようとしている。

4 単元設定の理由

(1) 【小学校学習指導要領解説 生活科編】内容(7)

動物を飼ったり、植物を育てたりする活動を通して、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけることができ、それらは生命をもっていることや成長していることに気付くとともに、生き物への親しみをもち、大切にしようとする。

(2) 単元設定の理由

本単元では、育てたい野菜を自分で選んで決めて育てる活動を行う。1年生の頃に育てたアサガオと比べながら育てることができる夏野菜の栽培に取り組むこととした。

自分の野菜に、世話や観察など自分で考えた働きかけをしていくことで、変化や成長の様子に気付くとともに、栽培活動の楽しさを味わうことを通して、植物への親しみをもち、大切にしようすることができるようにすることをねらいとしている。

また、教科等横断的な学習活動を行うことで、生活科としての単元の目標に近づくだけでなく、国語科・算数科・音楽科・特別の教科道徳等の学習においても生活科の学習をきっかけとして興味・関心をもったり、学んだことを生かし深めたりするなど、自分自身の生活へ生かすことができるようにしていくことができると考えた。

5 児童の実態

(1) 生活科の学習について

1年生「おおきなあれわたしのはな」では、5月からはアサガオ、12月からまでチューリップとパンジーを育てた。いずれもどんな花を育てたいかを学級全体で話し合って決めて育てた。

また、植物の栽培に限らず、1年生での生活科の全単元の学習を通して、「やりタイ」を実現する中に、「はっケン」があり、また次の「やりタイ」が出てくるというサイクルが意識されるようになり、自己決定を積み重ねてきた。生活科では、自分たちで活動の方向を決めるということを認識してきている。

(2) 地域のよさや素晴らしさへの気付きや地域への愛着について

昨年度、1年生の入学当初のスタートカリキュラムの一環で、安心して自分の力を発揮することができるようにすることをねらいとして、スクールサポート久原（地域の方）に給食と集団下校のサポートをしてもらった。児童は、初めて会った方には自分から名前を聞いたり、「〇〇さん」と自分から声をかけたりしていた。また、学校外で会った時にも自分から話しかけている児童もいた。

2年生の本単元では、苗は地域のホームセンターへ皆で行き、お店の方に相談するなど関わりながら各自選んで購入することから始める。そして、育てていくうちに野菜の育て方で分からないことがでてきた時、「専門家に教えてもらいたい」という思いから、野菜博士に世話の仕方を教えてもらったり、野菜博士から江戸東京野菜である馬込半白キュウリと馬込三寸ニンジンを紹介してもらったりして栽培に取り組むなど地域の伝統の野菜にも触れる。また、読書学習司書と連携し、久が原図書館の方からおすすめの本を選んでもらい、校内で紹介することで、この後の内容(4)公共物や公共施設の利用の単元へともつなげていく。

(3) 内容(7) 動植物の飼育・栽培について

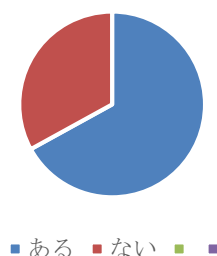
1年生の時に、春から夏にかけてアサガオ、秋から翌年春にかけてチューリップ・パンジーを一人一鉢自分の植木鉢で育ててきた。年間を通して、水やりなどの世話を毎日熱心に行っていた。そして、植物の成長の様子に興味・関心をもちながら観察することを繰り返し、変化や成長の様子に気付くと共に栽培活動の楽しさに気付くことができた。

本単元を通して、夏野菜や冬野菜、植木鉢と畑という様々な植物の栽培の体験の楽しさを感じ、「育てることが楽しい。」「育ってうれしい。」という気持ちや、「頑張って育てることができた。」という自信をもたせ、自分自身の成長に気付くことができるようにしたい。そのためにも、地域の野菜博士に単元を通して関わってもらったり、校内の教職員と連携したりすることで栽培に対する不安を取り除き、育てることへの期待をもって取り組むことができるようにしていきたい。

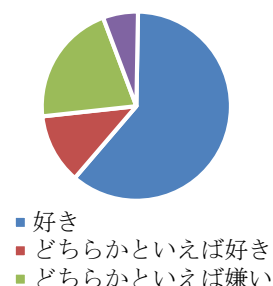
また、栽培をしている中で出会う生き物にも少しずつ興味をもてるようにし、1学期後半からの飼育単元「小さななかまたち」にもつなげる。

【やさいアンケート】（2年3組 児童33名 5月2日実施）

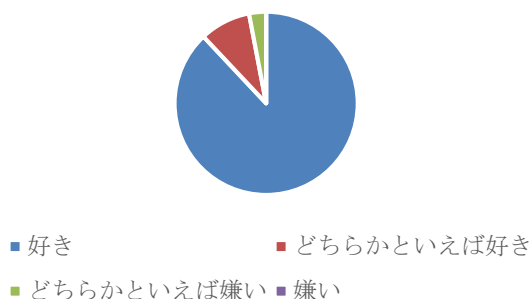
今までに野菜を育てた経験はありますか。



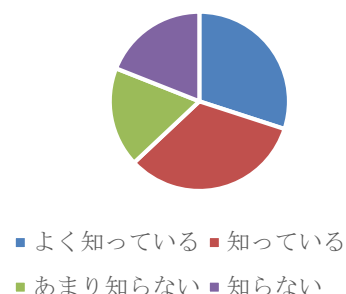
野菜を食べるのは好きですか。



野菜を育てるのは好きですか。



野菜のことをよく知っていますか。

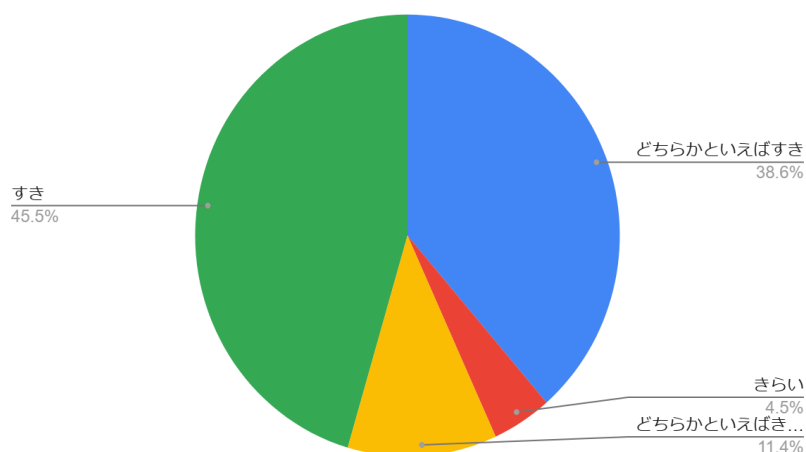


「今までに野菜を育てた経験はありますか」の項目では、約6割の児童が育てたことがあると答えた。幼稚園、保育園や家庭のベランダなどで育てたことがあると答えた。

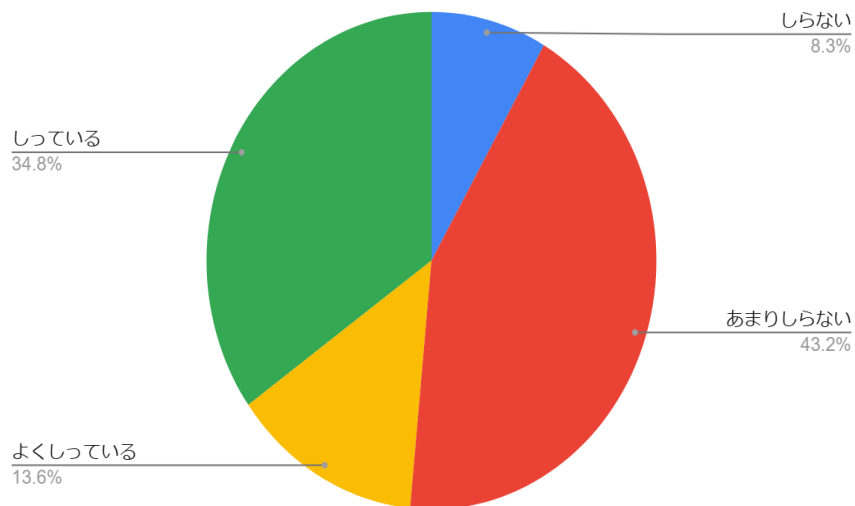
「野菜を食べるのが好きですか」「野菜を育てるのは好きですか」の項目では、食べるのが好きという肯定的な回答が約6割にとどまったことに対し、育てるのが好きという肯定的な回答は約9割という結果が出た。野菜を食べるのは抵抗があっても、育てることは好きな児童が多いという傾向が見られる。

「野菜のことをよく知っていますか」では、知っていると答えた児童は約3割にとどまっている。本単元の学習を通して、植物の特徴、育つ場所、世話の仕方、変化や成長の様子に気付きながら、生き物への親しみや大切にしようとする姿を育てていきたい。

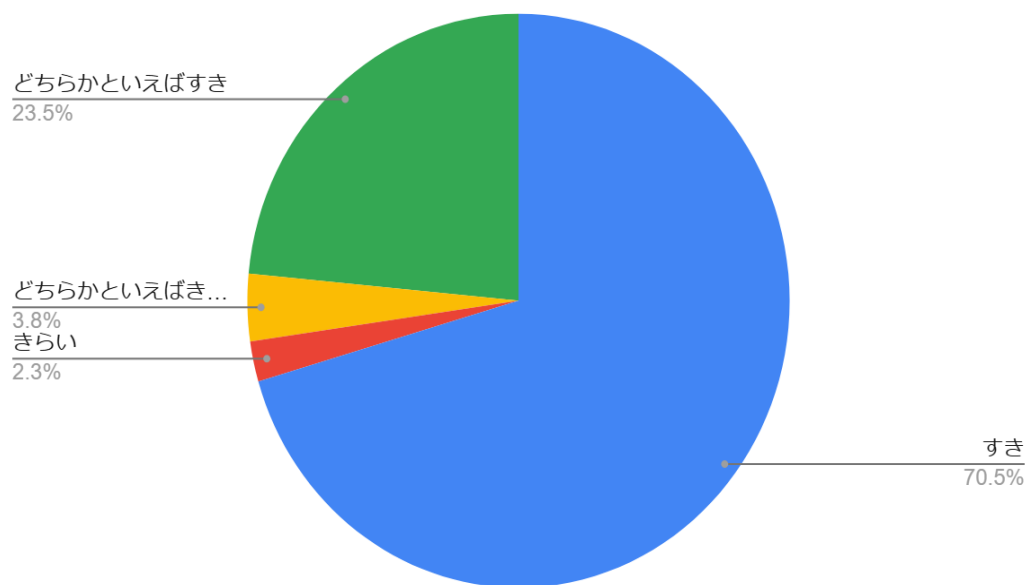
やさいをたべるのはすきですか。



やさいのことをよくしっていますか。



やさいをそだてるのは好きですか。



6 研究主題に迫るための手だて

低学年分科会で目指す姿

地域のよさやすばらしさに気付き、愛着をもち大切にする子

(1) 地域と連携・協働して思いや願いを実現するための工夫

①人や環境との関わりを通して、思いや願いを実現するために考えを広げる機会の設定

- ・栽培に関する絵本や図鑑を久が原図書館の団体貸出で借りたり、地域に在住している野菜の栽培に詳しい方に「やさいはかせ」として協力をしてもらったりして必要な情報を集めることができる環境を整えることで、知りたいことができた時や困った時に、考えを広げ、自分で解決できるようにする。
- ・野菜博士には、夏には江戸東京野菜である馬込半白キュウリについて紹介してもらい、秋には同じく江戸東京野菜である馬込三寸ニンジン種を譲ってもらい、学校で育てる活動を行う。地域の方の力を借り、江戸東京野菜にも興味をもち関心を広げることができるようにする。
- ・校内の栄養士に「野菜のおいしい食べ方」を相談したり、読書学習司書に野菜に関する絵本を読み聞かせをしてもらったりすることで、植物への興味・関心をさらに広げたりすることができるようにする。

(2) 自分の生活の中から思いや願いをもつことができるようにする学習活動の工夫

①児童が生活の中で学習対象に興味・関心（やりタイ）をもつことができる「第0次」の設定

- ・単元に入る前の読書の時間に野菜や栽培に関する絵本の読み聞かせをし、植物の栽培への興味・関心をもつことができるようにする。
- ・音楽の時間や朝の会などで植物に関する音楽を聞くことで、興味・関心を広げることができるようにする。
- ・「わくわくひろば」に野菜などの植物の本や図鑑などを地域の図書館から借りて設置することで野菜の栽培に興味・関心をもったり、すすんで調べたりすることができるようにする。

②学習活動に応じた環境構成の工夫

- ・単元の学習中に、身の回りで見つけた花や野菜などを持って来て置くことができる場を「わくわくひろば」（フロアの生活科コーナー）に作ることで、友達が見つけた物から野菜の栽培への興味・関心を広げることができるようにする。
- ・気付いたことをいつでも記録できるように、付箋、発見カード（多種類）を置いておく。
- ・お世話に使うグッズ（麻紐、わりばし、CD、アルミホイルなど）を置いておく。
- ・活動の途中や、単元終了後には「いかすコーナー」を設置し、さらに「やりたい」という思いをもったり、「自分もしてるよ。」「これならできそう。やってみよう。」というヒントになったりするようにする。

③主体的な活動につながる児童の多様な思いや願いを生かした学習活動の工夫

- ・児童の多様性を尊重し、育てたい野菜を自分で決めて、苗も自分で選ぶことで、「自分の野菜」という思いをもち、主体的に関わることができるようにする。
- ・本やタブレットで調べたり、野菜博士に聞いたりする活動を通して、自分で世話の仕方を選ぶことや、必要な物を用意することで世話の仕方を児童自身が工夫することができるようにする。

(3) 自分の生活を豊かにするための手だて

①対象に何度も関わり、試行錯誤して「やりタイ」「はっケン」を繰り返す学習活動の工夫

- ・活動の時間を十分にとり、学習材と繰り返し関わることで、対象に思いをもって関わり、変化や成長の様子に気付いたり、世話の仕方を工夫したりすることができるようにする。
- ・4月からは夏野菜、11月からは冬野菜を育てることで、比べながら観察をしたり、経験を生かして世話をしたりすることができるようにする。

②自分自身のよさや成長に気付き、次の活動の意欲（やりタイ）や自分自身の生活へとつなげる（イカす）振り返りの工夫

- ・活動の際に見付けたことを「はっケン」カードにかき、次にしたいことを振り返りカードに書くことで、気付いたことを整理したり、次の活動への意欲へとつなげたりすることができるようにする。
- ・野菜の成長を振り返る表現を自分たちで選んで伝え合うことで、活動を振り返り、自分なりに表現することができるようにする。
- ・「野菜を育てることがこんなに楽しいと思わなかった。」など、考え方が広がった際に、生活が豊かになってきたことを児童が自覚することができるように声かけ等をする。

(4) 気付いたことを交流し、学びを深めるための手だて

①交流しながら思考を整理することで、新たな気付きが生まれたり認識を深めたりする場の設定

- ・自分が発見したことをみんなの目に触れる掲示板に貼っておくことで、自分が気付いたことを友達と共有することができるようにする。生活科の授業の時間以外に、常時活動として朝の時間の前に水やりする。児童にとって発見を伝えたいタイミングが異なることから、発見したことがある時には、付箋やミニホワイトボードに絵や言葉で表現し、野菜ニュースとして黒板やパネルに貼って共有することができるようにしたりする。
- ・友達の手いた「はっケン」にも興味をもって見るようにするために、友達の手箋を見て、いいねと思ったら、「いいねシール」に自分の名前を書いて貼るようにする。
- ・ホワイトボードや付箋（カード）を活用して話し合うことで、思考を整理しながら、交流することができるようにする。思考が整理されることで次の「やりタイ」が見付けやすくなるようにする。
- ・「わくわくひろば」等で伝え合う場を常時活動として設けることで、友達に「伝えたい」という思いをもつことができるようにしたり、みんなで行った活動をさらに生かして紹介したり（イカす）することができるようにする。

7 おおたの未来づくり科との関連

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
創造的な資質・ 能力育成	①問題の発見・解決に必要な情報を収集・活用するための知識及び技能を身に付ける。 ②分かったことや考えたことを相手に分かりやすく伝えるための言語や情報技術に関する知識及び技能を習得する。	①目標と現状、予測と結果、異なる意見などを比較し、問題を発見する力を身に付ける。 ②既習事項や収集した情報、多様な考えを整理して問題の解決策を考える力を身に付ける。 ③問題を発見し、解決方法を考え、結果を予測しながら試行錯誤して解決方法の実行を繰り返し、問題解決を図る力を身に付ける。	①実社会で活躍する人などとの対話を大切にし、問題の発見・解決に資する情報収集に進んで関わろうとする態度を身に付ける。 ②問題の発見や解決に向かって、自分や他者のよさを生かして協働しながら、主体的に取り組もうとする態度を身に付ける。 ③学習を振り返って学習状況を把握し、次の問題発見・解決につなげていこうとする態度を養う。
低学年として目指す姿	活動や体験の過程において、自分や身近な人々、社会や自然の特徴やよさ、かわりに気付くとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付けている。	身近な人々、社会や自然を自分との関わりでとらえ、自分自身や自分の生活について考え、表現することができるようにしている。	身近な人々、社会や自然に働きかけ、意欲や自信をもって学んだり、生活を豊かにしたりしようとしている。
本単元において 目指す姿	野菜の栽培を通して、育てている野菜に応じた世話の仕方があることに気付く、その特徴に合わせた適切な仕方を知るために調べたり聞いたりしている。 発見カードに書いて、分かりやすく伝えている。	野菜の特徴、育つ場所、変化や成長の様子に着目して、観察したり世話をしたりしている。 野菜の立場に立って関わり方を見直しながら世話をしている。	野菜のよりよい成長を願って、繰り返し関わろうとしている。野菜に親しみや愛着をもったり、自分の関わりが増したことに自信をもったりしたことを実感し、生命あるものとして関わろうとしている。

※1 ページ「単元の評価規準」とも関連

8 教科等横断的な学習

他教科で学習したことを生活科の活動や体験の中で生かしたり、生活科での活動や体験から他教科の学習につなげたりすることができるカリキュラムの工夫

教科	単元名	「大きくそだて わたしのやさい」との関連	「おおた未来づくり」との関連
算数	グラフとひょう	クラスみんなの育てている野菜の数をグラフにまとめることができる。	収集した情報を整理してまとめられるようにする。
算数	長さのたんい	植物の成長に気付き、ものさしを用い、正しく測ることができる。	調べ方を増やすことができる。
算数	水のかさのたんい	野菜に必要な水の適量を、単位を用いて考えることができる。	適切な世話について試行錯誤して取り組むことができる。
道徳	ダンゴムシの まるちゃん	身近な自然に親しみ、優しい心で接することができる。	自然に親しみ大切にすることで、よりよい地域社会を作ろうとする態度を育てる。
国語	かんさつ名人に なろう	丁寧に観察して記録することができる。	観察するものを決めたり、文章の組み立てを考えたりする活動を通して、情報収集や試行錯誤して取り組むことができる。

9 指導計画(14 時間扱い)

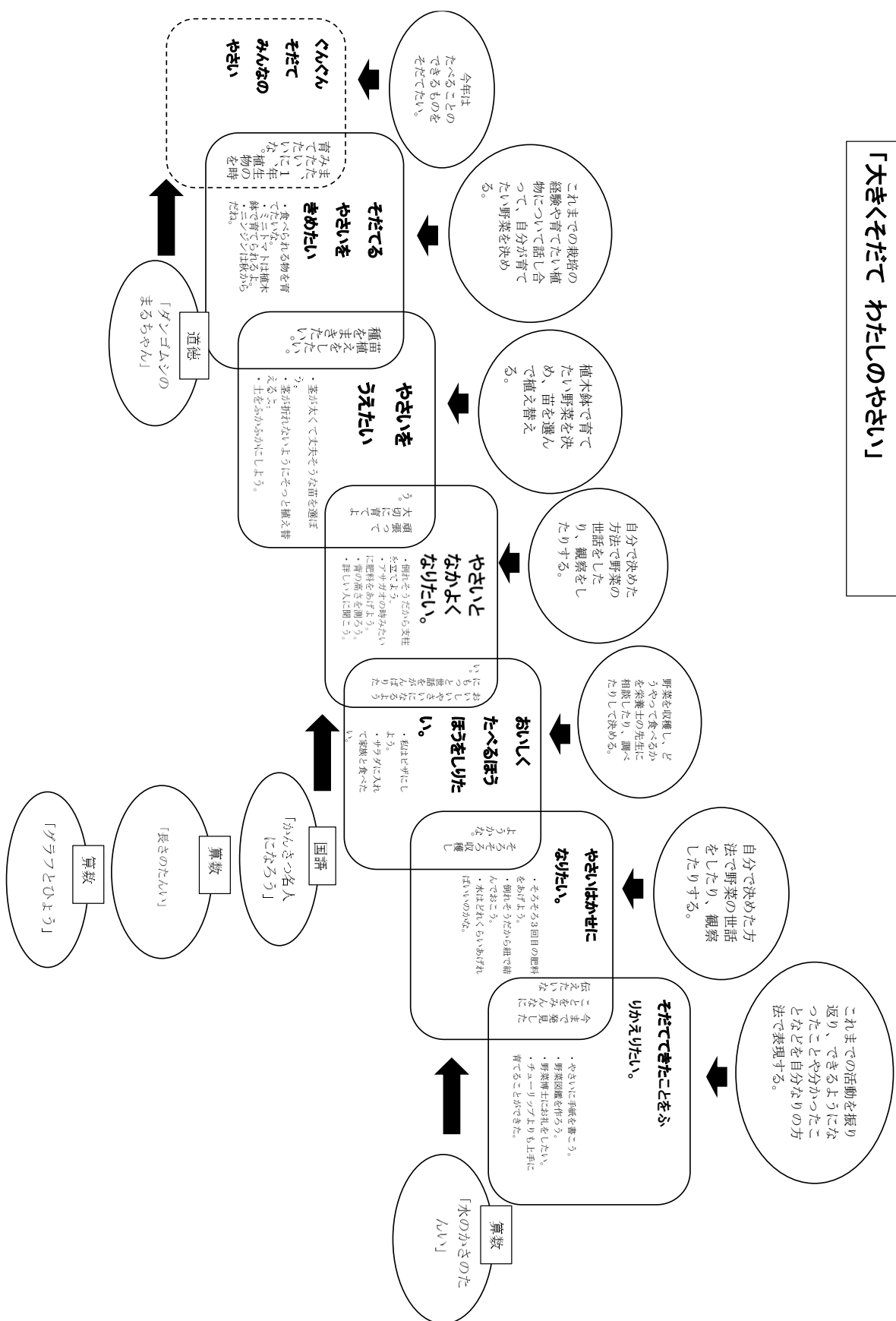
「大きくそだて わたしのやさい ～春から夏のやさい～」

時	●主な児童の活動 ・予想される児童の姿	◇手だて □支援 ☆ <u>評価</u> (評価方法) ■教科横断的な学習	おおた未来 づくり科 との関連		
			知	思	学
0	・2年生でも何か育てたいな。 ・やさいのことを、しりたいな。 ・こんなやさいがあるんだ。 ・じぶんでそだててみたいな。	◇(2) ①読書の時間や国語「図書かんたんけん」の学習の際に栽培に関する絵本の読み聞かせをして、野菜などの植物の栽培に興味・関心がもつことができるようにする。 ◇(2) ①身の回りにある花や野菜の苗などを「わくわくひろば」に置く。 ◇(2) ②野菜などの植物に関する本や絵本を「わくわくひろば」に置いて、みんなで見るようにし、栽培への興味・関心を高める。			①
1	そだてるやさいを きめたい ●これまでの栽培の経験や植物の育てたい植物について話し合っ、自分が育てたい野菜を決める。 ・食べられる物を育てたいな。 ・ミニトマトは、植木鉢で育てられるよ。幼稚園の時に育てたことがある。 ・ニンジンが秋からだね。	◇(2) ③育てたい植物について話し合う場を設定し、自分たちで決めることで、野菜を育てたいという気持ちを高めることができるようにする。 ◇(2) ③育てたい野菜を自分で選ぶことができるようにする。 ☆ <u>思</u> ①、 <u>主</u> ① (行動・発言・付箋)	①		①
2	やさいを うえたい ●植木鉢で育てたい野菜を決め、苗を選んで植え替える。 ・茎が太くて丈夫そうな苗を選ぼう。 ・折れないようにそっと植え替えるよ。 ・土をフカフカにしよう。	□様々な野菜を育てることで、野菜によって育て方が異なることや、共通することから夏野菜の特徴などに気付くことができるようにする。 ☆ <u>思</u> ② (行動・発言・振り返りカード)		③	
3 ・ 4 ・ 5 ・ 6 本時	やさいとなかよくなりたい ●自分で決めた方法で野菜の世話をしたり、観察をしたりする。 ・倒れそうだから、支柱をたてよう。 ・アサガオの時みたいに肥料をあげよう。 ・背の高さを測ろう。 ・どうすればいいのかな。詳しい人に聞きたい。	◇(1) ①絵本や図鑑で育て方を調べたり、解決法を見付けたりすることができるようにする。 ◇(3) ①活動の時間を十分に取り、変化や成長の様子に気付いたり世話の仕方を工夫したりすることができるようにする。 ■算数科「長さのたんい」の学習との関連を図る。 ◇(4) ①自分の野菜のことで発見したことを「はっケン」カードに書き、気付いたことを伝えることができるようにする。また、友達の野菜にも興味をもてるようにする。 ◇(4) ①自分の野菜だけではなく、自分の野菜と他の野菜を比べながら観察することができるようにする。 ☆ <u>知</u> ①②、 <u>思</u> ②、 <u>主</u> ② (行動・発言・「はっケン」カード・振り返りカード)	②	②	

7 ・ 8	おいしくたべる方ほうを知りたい ●野菜を収穫し、どうやって食べるかを栄養士の先生に相談したり、調べたりして決める。 ・私は、ピザにしよう。 ・サラダに入れて家族みんなで食べたいな。	◇（１）①自分の野菜を美味しく食べる方法を考えたり、調べたりすることができるように本などで調べられるようにする。 ☆知②（行動・発言・「はっケン」カード）		①	②
9 ・ 10 ・ 11	やさいはかせになりたい ●自分で決めた方法で野菜の世話をしたり、観察をしたりする。 ・そろそろ３回目の肥料をあげよう。 ・倒れそうだから紐で結んでおこう。 ・水はどれだけあげたらいいのかな。	◇（１）①困ったことは地域の野菜博士に質問できるようにする。 ◇（１）①絵本や図鑑を図書館でまとめて借りておき、育て方を調べたり、困ったときの解決法を見付ける参考にしたりすることができるようにする。 ■算数科「水のかさのたんい」の学習とつながるようにする。 ◇（４）①情報を出して、整理したり見合ったりすることを通して気付いたことを交流できるようにする。 ☆知②、思②③、主② （行動・発言・振り返りカード）		③	
12 ・ 13 ・ 14	そだててきたことをふりかえりたい ●これまでの活動を振り返り、できるようになったことや分かったこと、もっとやってみたいことなどを自分なりの方法で表現する。 ・私は野菜に手紙を書こう。 ・野菜図鑑を作ろう。 ・野菜博士にお礼をしたいな。 ・チューリップを育てた時よりもうまく育てられるようになった。 ・私は水やりのことがよく分かる博士になれたと思う。 ・秋からも何か育てたいな。 ・また家でも育ててみよう。	◇（２）②伝えたい相手やまとめ方を自分たちで決められるようにする。 ◇（３）②「名人認定証」を自分で作成することで、自分自身の成長に気付くことができるようにする。 ☆知③、思③④、主③（行動・発言・名人認定証）	②		②

第2学年 内容(7)

「大きくそだて わたしのやさい」



11 本時の指導(6/14時間)

(1) 本時の目標

○自分の野菜に合った世話の仕方を考えて世話をしたり、観察をしたりすることができるようにする。

(2) 本時の展開

時間	児童の活動・予想される児童の思いや願い・気付き	□指導上の留意点 ◇手だて ☆評価
導入	1 前時までの活動を想起して、本時の「やりタイ」を確認する。 ・野菜博士に教えてもらった虫よけをしたい。 ・大発見をして大発見カードにかきたい。 ・茎が倒れないように支柱に紐で結んでおきたい。 ・博士に教えてもらったから肥料をあげたい。	□野菜博士を通して励ましてもらったことや教えてもらった世話、自分がしたことや発見したことを思い出し、本時の自分の活動を考えることができるように写真や動画を見せる。 □野菜博士から教えてもらった動画や写真がドライブに入っていることを伝える。 □前時の目標に迫っていた児童の姿を紹介する。
やさいとなかよくなりたい		
展開	2 おせわとはっケンタイム (自分で考えて、世話や観察をする。) ・黄色い花が咲いている。 ・どうすればいいのか図鑑で調べよう。 ・花が咲いたあとに、緑の小さい実ができていたところがあった。 ・先の方にこんなつるがあったよ。 ・昨日なかった実を見つけたよ。 ・テントウムシにアブラムシを食べてもらおう。 ・虫よけのアルミホイルを付けよう。 ・博士が脇芽摘みの仕方を教えてくれたよ。 ・はっケンしたことをホワイトボードにかいておこう。 ・算数で測ったように長さを測ったよ。 ・もうすぐ実ができそうだ。 3 はっケンしたことをミニホワイトボードに書き黒板に貼り、学級全体で交流する。 ・トマトの花は下を向いていた。 ・花が下向きに咲いているなんて気が付かなかった。 ・本当にそうなっていてびっくりした。	◇自分で考えて工夫して働きかけることができるようにするために多様な材料を用意しておく □前の様子と比べたり、友達の野菜と比べたりしている児童を称賛する。 □今後の野菜の成長への思いやをもったり、これからどうなるのか予想している児童を称賛する。 □気付きの質の高まりが見られる児童や大きな変化が見られた野菜を写真や動画で撮影する。 ◇調べたいことがある場合はすぐに図鑑で調べることができるように本棚を設置する。 □野菜の様子に合わせて世話や観察をすることができるように声をかける。 ☆自分の野菜に合った世話の仕方を考えて世話をしたり、観察をしたりしている。 思考・判断・表現 (行動観察・発言・振り返りカード) □気付きの質が高まりが見られた姿やはっケンなどを取り上げて、全体で共有する。 □活動の際に撮影した写真や動画を活用する。 □自分自身の成長にも気付くことができるように声をかける。
まとめ	4 今日の活動を振り返り、カードに記入する。 ・今日は博士に教えてもらったことができた。 5 次の時間のやりタイやイカすを交流する。 ・水やりの時に友達の野菜を見たい。 ・次は、どうすればおいしく食べられるかを考えたい。 ・また野菜博士に聞きたいな。	□本時を振り返り、認識を深めたり、次のやりたいことについて考えたりすることができるようにする。 □気付いたことを共有して考えを深めたり、次の活動の意欲と見通し(やりたい)をもったりすることができるように声をかける。

12 板書計画



やさいとなかよくなりたい
 ・たくさんはっけんをしたい。
 ・大はっけんをカードにかきたい。





ミニトマト
 花が
さいたよ。

 つるが
まきついていたよ。

キュウリ
 みが
できたよ。

 しゅうかくし
たいな。

ピーマン
 はっばが
ふえたよ。

 くきが
のびたよ。

ナス
 みの いろが
かわったよ。

 あたらしいはっ
ばができたよ。

オクラ
 花がさいたあとに、
みができそう。

 色がかわってき
たのはなんだろう。

つぎは → ・やさいをおいしくたべるほうほうを知りたい。
・タブレットで、そだて方をしらべたい。
・やさいはかせに聞きたいことをカードに書きたい。

13 環境構成

黒板

**はっけん、イカすコーナー
(パネル)**

興味・関心をもったり、活動内容を決めた
りすることができるようにする。

 (本、わりばし、メッセージカードなど)

思いや願い・気付いたことを交流、認識
を深めたり、新たな思いや願いをもた
りすることができるようにする。

パネル

見付けたことを共有して、次の思いや願いもったり、
認識を深めたりすることができるようにする。(野菜
ごとに気付いたことや思いを付箋に書く。)

パネル

わくわく
ひろば

14 協議会記録

(1) 授業者自評

- ・ 時間配分が課題であった。
- ・ 工作のようにになっている児童がいたので、声掛けの仕方が課題である。
- ・ 消毒スプレーの用法について説明が不足していた。

(2) グループ協議

- ・ わくわく広場にいろいろな物が置いてあることで、こどもたちの興味や積極性が高まっていた。
- ・ 自分のやりたいことが明確で、様々なアイテムを使用し、主体的に取り組んでいた。
- ・ 自分が育てたい野菜を選んでいるため、野菜に関して関心が高く、大切に育てようとする意欲が感じられた。
- ・ 付箋や発見カードにただ書くだけで、伝え合う時間がなかった。交流することで個々の活動が広がるのではないかな。
- ・ 野菜博士から教えてもらったことを覚えている児童と、そうではない児童がいたようなので、教えてもらったことをスライドにまとめるなど、こどもたちがいつでも見られるようにしておく工夫があってもよかった。

15 指導・講評 大田区教育委員会 指導課 指導主事 原口 慧史 先生

- ・ 協議会が活発だった。
- ・ 指導案のクオリティーが高い。(手立てがよく書かれていた。)
- ・ 自分育てたい野菜を選んでいる点がよい。
- ・ 肥料スプレーと、ハサミの用法に危険が見られた。
- ・ 中間評価(学習の軌道修正、価値づけ)が不足していた。

「おおたの未来づくり」との関連

手立て1 (地域と連携・協働して思いや願いを実現するための工夫)

- ・ 人や環境との関わりを通して、思いや願いを実現するために考えを広げる機会があった。

手立て2 (自分の生活の中から思いや願いをもつことができるようにする学習活動の工夫)

- ・ 学習活動に応じた環境構成の工夫ができていた。(記録できるもの、お世話に使うグッズを生かしていた)

手立て3 (自分の生活を豊かにするための工夫)

- ・ 自分の選んだ野菜の変化や成長に気づき、世話の仕方を工夫しようとしていた。

手立て4 (気付いたことを交流し、学びを深めるための工夫)

- ・ 学級で共有し、他者の考えに触れることで、自分の学びを深められていた。

ファシリテーター(導く者)としての役割

- ・ 教えなければわからないことに気付けというのは無理。→正しいことを教えてよい。

16 成果と課題

【手立て（１）】地域と連携・協働して思いや願いを実現するための工夫

成果

- ・地域に在住している野菜の栽培に詳しい「やさいはかせ」に期間を開けて２回来校していただき、世話についてのアドバイスをいただくことで、野菜の特徴や世話の方法について知識を深めることができた。

課題

- ・児童がアドバイスをもらいたいと感じた時にすぐに「やさいはかせ」に質問できるような機会を設定していけたらよかった。来校していただくだけでなく、手紙のやり取りをするなど、スクールサポーターとの連携ももっと密にしていく必要がある。

【手立て（２）】自分の生活の中から思いや願いをもつことができるようにする学習活動の工夫

成果

- ・「わくわくひろば」（生活科コーナー）を設け、様々な材料を置いておくことで、児童の多様な思いや願いを生かした学習活動ができた。

課題

- ・児童のやりタイ（思いや願い）は毎時間変化していくので、それに応じた１時間ごとの環境構成を想定する必要がある。

【手立て（３）】自分の生活を豊かにするための工夫

成果

- ・活動の時間を十分に確保することで、学習材とたっぷりかかわることができた。野菜にかかわる時間の中で、児童一人一人が自分の野菜への思いや愛着を深めることができた。

課題

- ・試行錯誤して「やりタイ」「はっケン」を繰り返す学習活動に合わせて、次の活動への意欲につながる効果的な振り返りの方法をさらに考えていく必要がある。

【手立て（４）】気付いたことを交流し、学びを深めることができるようにする工夫

成果

- ・交流しながら思考を整理し、新たな気付きが生まれたり認識を深めたりする場として、ホワイトボードや付箋を用いたことで、「はっケン」を表現したり、交流したりすることができた。

課題

- ・交流の質を高めていきたい。友達の「はっケン」にもっと目を向けられるような仕掛けを見つけていけたらよかった。